

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

&lt;小規模多機能型居宅介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1475201107
法人名	特定非営利活動法人のぞみ
事業所名	のぞみの家 宮内
訪問調査日	令和6年9月4日
評価確定日	令和6年9月24日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

### ○項目番号について

外部評価は23項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和5年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475201107	事業の開始年月日	平成17年5月1日	
		指定年月日	平成18年5月1日	
法人名	特定非営利活動法人のぞみ			
事業所名	のぞみの家 宮内			
所在地	(2110051 ) 川崎市中原区宮内3-10-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和6年8月26日	評価結果 市町村受理日	令和6年9月26日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ感染が長引いたことにより、施設外でのレクリエーションがあまり出来なかったため、今後は内外共にレクリエーションに力をいれて、入居者と共に楽しく過ごせる時間を作りたい。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和6年9月4日	評価機関 評価決定日	令和6年9月24日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は特定非営利活動法人のぞみの運営です。同法人は地域に住む認知症高齢者の方が職員の支援を受けながら、自信と安心感をもち、住み慣れた地域の中で日常生活が送れるよう支援を行うとともに、家族の負担軽減を図り、認知症高齢者の福祉増進を図ることを目的として2002年に設立された法人です。現在は横浜・川崎・藤沢・鎌倉の4つの市でグループホームを計6事業所を運営している他、訪問介護、居宅介護支援事業所の在宅系サービスを展開しています。また、系列会社では、有料老人ホーム・共同住宅・食材卸売・配送業務も行っています。ここのぞみの家宮内は、JR南武線「武蔵中原駅」から徒歩15分程の場所にあり、同じ敷地内に隣接して同法人のグループホーム「のぞみの家i(あい)」もあります。

●今年の4月から着任した管理者は、書類の作成・見直し、職員の教育等を課題の1つとして掲げています。管理者は介護経験も長く、特別養護老人ホームでの勤務やグループホームで管理者の経験もあり、これまでの経験・ノウハウを活かして書類の整備、マニュアル作成に取り組むなどして、体制や基盤づくりに注力しています。

●コロナウィルスが5類感染症に移行してからは、面会や外出等の制限も解除しましたが、気候の変動により外出支援が難しい状況が続いていることから、室内でのレクや毎月行事を計画して、入居者も職員も楽しく過ごせるを中心に入居者も楽しく、職員も楽しく過ごせる時間を作るよう心がけています。

●事業所では地域のニーズを踏まえて3年前から新たにデイサービスを開始しましたが、現在は一時休止とし、短期入所生活介護(ショートステイ)の受け入れをグループホームと併設して行っています。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	のぞみの家 宮内
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議や普段のカンファレンス等でも理念について触れているが、職員の入れ替わりが多く、外国人職員への共有にも苦慮しているが、時間をかけしっかりと実践に繋げたい。	法人の理念「安心・安全・快適な福祉サービスの提供」を事業所の理念として踏襲し、月1回の会議等で細分化して理念を職員に伝えながら浸透を図っています。今後は、職員と話し合いながら事業所独自の目標を作成していきたいと考えています。		今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等でご家族や近隣住民の方に参加頂いています。コロナが5類になり、地域の行事も再開しているので、今後は積極的に参加していきたい。	コロナウィルスが5類感染症に移行し、地域の行事も再開されていますが、気候の変動により入居者をお連れしての参加は難しい状況ですが、毎月宮内公民館で開催されている「宮内カフェ」に入居者数名と参加して交流をもてるようにしています。		今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2～3か月ごとの運営推進会議を実施、グループホーム連絡協議会にも参加している。地域のケアマネとの交流にて緊急ショートを受け入れもっている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3か月ごとの運営推進会議を実施、グループホーム連絡協議会にも参加している。	2～3ヶ月の頻度で同法人の「のぞみの家i（あい）」、他法人の事業所と合同で、町内会長・老人会代表・民生委員・近隣の特養施設長に参加いただき開催しています。各事業所ごとに近況・活動報告等を中心に地域の情報についても意見交換を行っています。内容は議事録に纏め、内容を職員に共有しています。		今後は2ヶ月に1回、単独での開催を期待いたします。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2～3か月ごとの運営推進会議を実施、グループホーム連絡協議会にも参加している。	介護保険制度の改定時など、疑問点や不明点があれば担当者に確認しながら、事業所運営を行っています。直近で実地指導があり、指摘を受けた事項等について改善に取り組んでいます。また、グループホーム連絡協議会に参加し、年2回他の事業所と研修会や情報共有に努めています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、毎月の全体会議にて身体拘束について触れている。年2回、近隣のグループホームと合同で身体拘束・虐待についての研修も実施。	身体拘束・高齢者虐待防止法については、法人で作成している年間研修計画にも毎年盛り込まれ、必ず全職員を対象に研修を実施しています。身体拘束については、法人研修とは別に年2回、近隣のグループホームと合同勉強会も開催し、チェックリストを用いた自己点検や事例を持ち寄っての検討会も実施しています。さらに、3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を開催し、管理者・計画作成担当者・当日勤務の職員で入居者の対応や言葉遣いについても討議しています。	今後の継続	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を設置し、毎月の全体会議にて身体拘束について触れている。年2回、近隣のグループホームと合同で身体拘束・虐待についての研修も実施。	高齢者虐待防止法についても、法人で作成している年間研修計画にも毎年盛り込まれ、必ず全職員を対象に研修を実施しています。身体拘束については、法人研修とは別に年2回、近隣のグループホームと合同勉強会も開催し、チェックリストを用いた自己点検や事例を持ち寄っての検討会も実施しています。さらに、3ヶ月に1回虐待防止委員会を開催し、管理者・計画作成担当者・当日勤務の職員で入居者の対応について討議しています。	今後の継続	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人を付けている入居者の方もいますが、管理者・ケアマネ以外の職員が中々そのことに携わることが無いので、今後は学ぶ機会を作り、それらを活用できるよう支援していきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。			
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者会議・全体会議にて共有し、実施している。	コロナウィルスが5類感染症に移行してからは、面会・外泊等の制限も解除し、自由に来訪いただけるようにしています。家族が来訪された際には、管理者が対応し、意見・要望はケース記録に記入して情報を共有しています。毎月の管理者会議、事業所内の全体会議でも共有と検討を行い、運営に反映させる体制を取っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や全体会議等で意見を聞き反映させている。	毎月の管理者会議の内容を事業所内の全体会議で共有し、法人の運営方針等、必要事項を周知しています。業務や入居者のケアに関する情報は、ユニット会議や全体会議で意見交換しながら取り入れています。現在の管理者は今年の4月から着任し、職員の意見等を聴きながら、業務マニュアル・記録・書類関連の見直しと改善に取り組んでいます。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事評価制度を実施し、個々の実績に応じ評価している。	今年の4月から着任した管理者は、職員がゆとりを持ち入居者のケア対応が行えるよう、積極的に職員の意見を聴きながら、業務マニュアル・記録・書類関連の見直しと改善に取り組み、勤務しやすい環境整備に努めています。法人では人事評価制度を導入しており、年2回自己評価を基に職員との個別面談を実施し、個人目標の設定と振り返りを行っています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修の推奨を実施、費用等も法人負担にて受けられるよう配慮し、法定研修も毎月実施している。入職時にはOJTにて指導を行い、チェックシートや振り返りシートにて確認している。	法人として資格取得支援を充実させ、職員向けに資格取得講座や勉強会などを開催し、資格を取得しやすい環境を整備しています。職員が外部研修に参加しやすいよう受講費用の補助や法人研修、事業所内研修も毎月実施され、職員の知識や専門性の向上に努めています。入職時には、管理者を中心にOJTを行っていましたが、4月からOJTの期間中はチェックシート・振り返りシートを活用し、職員の習熟度を確認するようにしています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で難しい状況で有ったが、今後はそのような機会があれば積極的に参加を促し、交流に努めたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室担当により、ご本人の要望を聞き不安を解消することにより、信頼関係を築く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居室担当を設け、担当のご家族とのコミュニケーションを密にし、ご家族様からの要望を直接聞くことで、信頼関係に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のアセスメントを元に入居前の生活が継続できるよう、入居者様やご家族の意向に沿った支援が出来るよう努める		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かし、出来ることはやって頂き、出来ないことを補い支援することを大切にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の気持ちに寄り添い、ご家族様も一緒に支援していく事を大切にしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の生活で築いた関係を大切に、馴染みの方との交流を継続できるよう努める。	家族の来訪頻度は入居者によって異なりますが、多い方で週1回家族が来訪されています。コロナウィルスが5類感染症に移行してからは、外出・外泊等の制限も解除しており、馴染みの人や場所との関係性を継続できるよう支援しています。また、携帯電話を持ち込まれている方もおり、ご自身で操作できる人は家族と連絡を取り合っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士も、お互いに気遣い、支え合える関係が出来るよう支援に努める。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者が退居される際に「今度は私たちがお世話になるかもしれないのでその時はよろしくね」との事で、関係性を大切にする支援に努める		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	全ての入居者様一人ひとりの要望に応えることは難しいですが、なるべくその要望に近づけるよう努めている	入居面談時に過去の生活歴・既往歴・趣味嗜好品・事業所での暮らし方の希望等について聴き取りながら基本情報シートを作成し、入居者の思いや意向に沿った支援ができるよう、職員間で情報共有しながらケアに反映させています。事業所では居室担当制を設け、一人ひとりの思いや意向の把握に努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントを元に入居前の生活が継続できるように、入居者様やご家族の意向に沿った支援が出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立を尊重し、個々の有する能力に応じ個別ケアに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで、個々の状態を話し合いその時の状態に応じ、ご家族様へも報告、了承を頂き介護計画へ反映している。	入居時のアセスメントで得られた情報を基に初回の介護計画を作成し、1ヶ月程度を目安に様子を見ながらADLやIADLに関する情報を収集し、毎月のユニット会議で入居者の状態についてモニタリングを行っています。介護計画の見直しについては、短期目標の設定期間(半年)、もしくは状態の変化が合った方を中心にアセスメントを行い、その方に合わせた介護計画につなげています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のカンファレンスで、個々の状態を話し合いその時の状態に応じ、ご家族様へも報告、了承を頂き介護計画へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月のカンファレンスで、個々の状態を話し合いその時の状態に応じ、ご家族様へも報告、了承を頂き介護計画へ反映している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所で開催の認知症カフェへ参加し、地域住民との交流を行っています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族・本人様の意向を伺い、今まで馴染みのかかりつけ医を継続するのか、それとも施設の囑託医に移行するのかを確認、ご希望に沿う対応に努めています。	契約時に協力医療機関について説明するとともに、かかりつけ医の有無を確認しています。現在は3ヶ所のクリニックから主治医が往診に来ており、各々契約している主治医に往診を受けています。事業所では看護師を雇用しており、週4回看護師による健康管理も行われています。歯科は必要な方のみ契約し、口腔ケア等を受けています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	こちらでは週4日看護師が勤務しているのですが、個々の状態変化の際は直ぐに看護してもらい適切な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療関係やご家族との連絡を密にし、早期退院できるよう対応、退院後も安心して戻って頂ける様努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて、医師の診断の元、ご家族様のご意向があれば、ご家族との話し合いの中、十分な説明と同意の元、方針を共有し、お看取りの支援に取り組んでいます。	入居契約時に重度化や終末期における指針について説明し、同意書を取り交わしています。事業所では看取りを行う方針としており、看取り対象の方の有無問わず、年1回は職員に対して研修を実施しています。状態の変化が見られた段階で、主治医・家族・管理者による話し合いの場を設け、今後の方針を共有しながら対応しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まだ充分とは言えないが、急変時は看護師・又は管理者に報告、アドバイスを貰える体制は出来ているが、職員個々の判断ではまだ難しいので、今後の課題として研修を実施し、実践力を身に付けていきたい。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施しているが、地域住民との協力体制の構築までにはいかない。近隣住民も交え、大がかりな防災訓練等実施し、協力体制を築くことは今後の課題です。	年2回の防災訓練は消防設備点検に合わせて消火・通報訓練を実施しています。近年は自然災害が猛威を振るっていることから、今後は風水害等も想定した訓練を取り入れた訓練や、近隣住民との協力体制構築を課題としています。また、BCPの策定や防災備蓄リストも作成し、分散管理を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にそのように指導していますが、生活の場というところでは、言葉かけについてはどうしても、雑になりがちなので、常に職員同士でも注意し合いながら、自尊心を傷付けない言葉遣いに努めている	入居者は人生の先輩として、尊厳や自尊心、羞恥心を損なうことのないよう、特に言葉遣いには注意しています。また、NGワードや対応を定め、不適切な言葉や対応が見受けられた際には、職員同士が互いに注意し合えるような雰囲気作りを心がけています。フロアーで申し送りを行う際には、声の大きさや氏名を出さないようにする、居室の入り口に暖簾を取り付け、プライバシーや羞恥心に配慮しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室担当制を設け、ご家族や個々の思いを汲み取れるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自身のペースを大切にし、ご自身の希望に沿った過ごし方を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様が髪の毛のカットや毛染等自由に選択出来るよう、訪問理美容をご利用して頂いています。入浴時の着替えについてもご本人で選択出来る方については一緒に準備をしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	提携会社による、献立により材料を仕入れ事業所内でお手伝いの出来る方にはお手伝いして頂き、手作りをしています。(事業所のうりの一つです)片付け等もご利用者様が積極的にお手伝いしてくれています。	法人の提携会社が立てた献立を基に食材を発注し、職員が調理しています。出来る方には、盛り付け・食器拭き・洗いなどを負担にならない範囲で手伝っていただくようにして、残存能力の維持につなげています。2階フロアーには調理専任の職員がいることから、その分入居者に手厚いケアが行える体制となっています。今後は、行事食等の楽しめる食事を提供したいと考えています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・排泄チェック表を記録し、個々の食事・水分の摂取量を確認、個々に応じた対応を支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日食後には口腔ケアを実施、口腔内の状態確認、異常がある際は提携歯科医に繋がっています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄については、お一人お一人の排泄パターンを把握し、自立の方は見守りで行って頂き、介助が必要な方についても、座位が保てる方についてはトイレに座って頂いています。法人でオムツゼロ作戦を実施し取り組んでいます。	一人ひとりの排泄・水分摂取量を記録につけ、排泄状況や水分摂取量を把握し、自立している方は見守りで、職員の介入が必要な方は声かけや介助を行うことで、トイレでの排泄につなげています。安易にオムツ等を使用せず、極力自立した状態を維持できるよう工夫しながら支援しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・排泄チェック表を確認、特に水分摂取には留意し、飲食や運動での改善も併せて、個々の対応に取り組んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	最低週2回の入浴日を設定していますが、その日のご本人の状態や意向を考慮し、無理強いほしない支援に努めています。又ご希望に応じ、同性介助にも留意しています。	週2回、午前中を基本とした入浴支援を行っています。入浴前にはバイタルチェックとともに本人の意向を確認し、無理強いすることなく、気分良く入浴していただけるように支援しています。浴槽は一般浴ですが、重度化した方は同敷地内に隣接している「のぞみの家i」の機械浴で入浴していただくことも可能となっています。現在はいませんが、同性介助を希望される方がいる場合は、職員の配置を変更するなどして、対応するようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様ご自身のペースで自室で休息したり、好きに過ごせるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人の服薬について、目的や副作用についても理解し、変更の際は申し送りで全職員に周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じてお手伝いをして頂いたり、嗜好品、楽しみ等把握し、個別の支援に努めています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力の一部のご利用者様は外出支援が出来るが、職員不足やコロナ渦もあり、施設レクとしての外出支援が出来ていないのが現状です。今後はご家族にも支援を仰ぎながら外出支援に努めたい。	最近気候の変動も激しく、なかなか外にお連れする機会を持っていませんが、気候が良い日には近くの公園、駐車場に出たり、宮内カフェ（宮内公民館）に参加、個別で買い物にお連れするようにしています。クリスマス会では、家族を招いての餅つき大会を行うなど、家族も巻き込んだ行事を企画しています。今後の目標として、外出レクを増やすことを検討しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にお小遣いとしてご家族よりお預かりして、事業所で管理していますが、ご自身でお金を使用出来る方については、ご希望に応じ、外出時や、買い物等の支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で携帯をお持ちの方もいますので、自由に連絡を取れる体制をしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族やご本人の意向を伺って、ご家庭と同じような設えを支援しています。又馴染みのある家具や小物等も持ち込んで頂いています。	室内の照明はLEDに切り替え、2階の廊下には天窓もあることから室内は十分な明るさが確保されています。リビングにはカラオケの機械も設置されており、レクや体操時に活用しています。また、整理整頓を心がけ、安全面を確保しながら快適に過ごしていただける空間づくりがされています。今後は美化担当者を決めて、季節の飾りつけや室内を清潔に保つようにしたいと考えています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居様同士が、お互いに居室を行き来しおしゃべりをする等、思い通りに過ごせる空間作りに努めています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居様については、使い慣れた家具や好みの物を取り入れた空間作りをしているが、泊りのご利用者様については、中々そこまでできないのが現状ですが、なるべく落ち着かれ過ごして頂く空間作りに努めています。	入居時には使い慣れた家具や寝具を自由に持ち込んでいただき、馴染みある物や思い出の品に囲まれながら、落ち着いて過ごせる空間づくりをお願いしています。ADLの変化によっては、家族と相談して配置替えや模様替えを行うこともあります。各居室には温度計、湿度計が設置され、適切な環境下で過ごせるように調整しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身のお部屋の入口に表札を設置したり、トイレ等も分かりやす用に案内板を設置する等、ご入居様が安心・安全で過ごして頂く空間作りに努めています。		

目 標 達 成 計 画

事業所 のぞみの家 宮内

作成日 令和6年9月4日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		勤続3年以上の職員が少なく、職員の教育から始めないといけない状態である。	職員のスキルアップ	職員一人一人のスキル向上の為の教育が必要と思われるので、認知症の方に対する対応等施設内での勉強会や外部での研修等積極的に参加を促す。	1年以内

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	のぞみの家 宮内
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議や普段のカンファレンス等でも理念について触れているが、職員の入れ替わりが多く、外国人職員への共有にも苦慮しているが、時間をかけしっかりと実践に繋げたい。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等でご家族や近隣住民の方に参加頂いています。コロナが5類になり、地域の行事も再開しているので、今後は積極的に参加していきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2～3か月ごとの運営推進会議を実施、グループホーム連絡協議会にも参加している。地域のケアマネとの交流にて緊急ショートの受け入れも行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3か月ごとの運営推進会議を実施、グループホーム連絡協議会にも参加している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2～3か月ごとの運営推進会議を実施、グループホーム連絡協議会にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、毎月の全体会議にて身体拘束について触れている。年2回、近隣のグループホームと合同で身体拘束・虐待についての研修も実施。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を設置し、毎月の全体会議にて身体拘束について触れている。年2回、近隣のグループホームと合同で身体拘束・虐待についての研修も実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人を付けている入居者の方もいますが、管理者・ケアマネ以外の職員が中々そのことに携わることが無いので、今後は学ぶ機会を作り、それらを活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者会議・全体会議にて共有し、実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や全体会議等で意見を聞き反映させている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事評価制度を実施し、個々の実績に応じ評価している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修の推奨を実施、費用等も法人負担にて受けられるよう配慮し、法定研修も毎月実施している。入職時にはOJTにて指導を行い、チェックシートや振り返りシートにて確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍で難しい状況で有ったが、今後はそのような機会があれば積極的に参加を促し、交流に努めたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室担当により、ご本人の要望を聞き不安を解消することにより、信頼関係を築く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居室担当を設け、担当のご家族とのコミュニケーションを密にし、ご家族様からの要望を直接聞くことで、信頼関係に努める。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のアセスメントを元に入居前の生活が継続できるよう、入居者様やご家族の意向に沿った支援が出来るよう努める			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かし、出来ることはやって頂き、出来ないことを補い支援することを大切にしている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の気持ちに寄り添い、ご家族様も一緒に支援していく事を大切にしている。			
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の生活で築いた関係を大切に、馴染みの方との交流を継続できるよう努める。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士も、お互いに気遣い、支え合える関係が出来るよう支援に努める。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者が退居される際に「今度は私たちがお世話になるかもしれないのでその時はよろしくね」との事で、関係性を大切にする支援に努める		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	全ての入居者様一人ひとりの要望に応えることは難しいですが、なるべくその要望に近づけるよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントを元に入居前の生活が継続できるように、入居者様やご家族の意向に沿った支援が出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立を尊重し、個々の有する能力に応じ個別ケアに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで、個々の状態を話し合いその時の状態に応じ、ご家族様へも報告、了承を頂き介護計画へ反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のカンファレンスで、個々の状態を話し合いその時の状態に応じ、ご家族様へも報告、了承を頂き介護計画へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月のカンファレンスで、個々の状態を話し合いその時の状態に応じ、ご家族様へも報告、了承を頂き介護計画へ反映している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所で開催の認知症カフェへ参加し、地域住民との交流を行っています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族・本人様の意向を伺い、今まで馴染みのかかりつけ医を継続するのか、それとも施設の囑託医に移行するのかを確認、ご希望に沿う対応に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	こちらでは週4日看護師が勤務しているので、個々の状態変化の際は直ぐに看てもらい適切な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療関係やご家族との連絡を密にし、早期退院できるよう対応、退院後も安心して戻って頂ける様努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて、医師の診断の元、ご家族様のご意向があれば、ご家族との話し合いの中、十分な説明と同意の元、方針を共有し、お看取りの支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まだ充分とは言えないが、急変時は看護師・又は管理者に報告、アドバイスを貰える体制は出来ているが、職員個々の判断ではまだ難しいので、今後の課題として研修を実施し、実践力を身に付けていきたい。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施しているが、地域住民との協力体制の構築までにはいかない。近隣住民も交え、大がかりな防災訓練等実施し、協力体制を築くことは今後の課題です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にそのように指導していますが、生活の場というところでは、言葉かけについてはどうしても、雑になりがちなので、常に職員同士でも注意し合いながら、自尊心を傷付けない言葉遣いに努めている			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室担当制を設け、ご家族や個々の思いを汲み取れるよう努めています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自身のペースを大切にし、ご自身の希望に沿った過ごし方を支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様が髪の毛のカットや毛染等自由に選択出来るよう、訪問理美容をご利用して頂いています。入浴時の着替えについてもご本人で選択出来る方については一緒に準備をしています。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	提携会社による、献立により材料を仕入れ事業所内でお手伝いの出来る方にはお手伝いして頂き、手作りをしています。（事業所のうりの一つです）片付け等もご利用者が積極的にお手伝いしてくれています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・排泄チェック表を記録し、個々の食事・水分の摂取量を確認、個々に応じた対応を支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日食後には口腔ケアを実施、口腔内の状態確認、異常がある際は提携歯科医に繋がっています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄については、お一人お一人の排泄パターンを把握し、自立の方は見守りで行って頂き、介助が必要な方についても、座位が保てる方についてはトイレに座って頂いています。法人でオムツゼロ作戦を実施し取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・排泄チェック表を確認、特に水分摂取には留意し、飲食や運動での改善も併せて、個々の対応に取り組んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	最低週2回の入浴日を設定していますが、その日のご本人の状態や意向を考慮し、無理強いほしない支援に努めています。又ご希望に応じ、同性介助にも留意しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様ご自身のペースで自室で休息したり、好きに過ごせるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人の服薬について、目的や副作用についても理解し、変更の際は申し送りで全職員に周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じてお手伝いをして頂いたり、嗜好品、楽しみ等把握し、個別の支援に努めています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力の一部のご利用者様は外出支援が出来るが、職員不足やコロナ渦もあり、施設レクとしての外出支援が出来ていないのが現状です。今後はご家族にも支援を仰ぎながら外出支援に努めたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にお小遣いとしてご家族よりお預かりして、事業所で管理していますが、ご自身でお金を使用出来る方については、ご希望に応じ、外出時や、買い物等の支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で携帯をお持ちの方もいますので、自由に連絡を取れる体制をしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族やご本人の意向を伺って、ご家庭と同じような設えを支援しています。又馴染みのある家具や小物等も持ち込んで頂いています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居様同士が、お互いに居室を行き来しおしゃべりをする等、思い通りに過ごせる空間作りに努めています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居様様については、使い慣れた家具や好みの物を取り入れた空間作りをしているが、泊りのご利用者様については、中々そこまでできないのが現状ですが、なるべく落ち着かれ過ごして頂く空間作りに努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身のお部屋の入口に表札を設置したり、トイレ等も分かりやす用に案内板を設置する等、ご入居様が安心・安全で過ごして頂く空間作りに努めています。		

目 標 達 成 計 画

事業所 のぞみの家 宮内

作成日 令和6年9月4日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		勤続3年以上の職員が少なく、職員の教育から始めないといけない状態である。	職員のスキルアップ	職員一人一人のスキル向上の為に教育が必要と思われるので、認知症の方に対する対応等施設内での勉強会や外部での研修等積極的に参加を促す。	1年以内

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。